

# 施政方針の概要

6月12日(火)、平成19年第3回薩摩川内市議会定例会で、森卓朗市長が述べた市政に関する考えや方針の概要を紹介いたします。

なお、全文は市ホームページに紹介しています。

## 本市をめぐる

### 最近の動きについて

■立地協定  
6月9日、京セラ株式会社との立地協定書の調印式を執り行いました。

地権者の方々や多くの関係機関、地元関係者のご理解とご協力のもと、延べ床面積約4万㎡もの規模の工場を増設するものです。

これにより、かなりの新規の雇用が見込まれるなど、本市の経済浮揚に大きく貢献するものと期待しています。

■産業廃棄物  
なお、今後とも企業立地のために精力的な誘致活動をさらに展開していきます。

### 管理型最終処分場

5月8日、県が本市の川永野町を調査候補地として発表し、これまで地元自治

整備などにより川内港の地理的優位性がさらに向上するものと思われまます。

今後、南九州の物流拠点港として利活用の促進に努めます。

### ■ワンフロア体制の構築

米政策改革大綱に沿って、米作りの本来あるべき姿を実現すべく、本市とさつま川内農業協同組合が一体となつて、生産調整に関する事務を遂行するために、さつま川内農業協同組合職員1人が市役所本庁4階の農政課に常駐し、市職員と協力して業務を行う、いわゆる「ワンフロア体制」を構築しました。

### ■市立幼稚園適正規模等基本方針について

#### 基本方針について

4月〜5月にかけて、市立幼稚園適正規模等基本方針案(基本的な考え方、学級編制、統廃合、職員の配置および通園バスなど)の

地域説明会を開催しました。その中で寄せられた意見について、十分な分析・検討を進めつつ、同検討委員会の報告内容と照らし合わせ、行財政改革の基本的な

考えは堅持しながら、可能な限り市民の皆さんの要望に沿えるように基本方針を決定していきます。

### ■ふれあい市民会議

これまで18回、2500人の参加をいただいています。本年度は、5月25日、

高江中学校区を始めとして、市内7会場で開催します。

### ■市政モニター

推薦・公募で選ばれた97人を市政モニターとして委嘱しました。

### ■行政改革推進委員

8人に委嘱し、現在、今後の支所の在り方を模索するテーマを中心に、審議をお願いしています。

### ■女性50人委員会

50人の委員が生活環境・保健福祉・産業経済・教育文化の四つの分科会に分かれて、女性の感性豊かな視点からの提言をいただきます。

### ■地区コミュニティ協議会連絡会の発足

5月31日、地区コミュニティ協議会連絡会が発足し、会則の決定と役員を選出がなされました。

本市のまちづくりは、市民一人一人が主役であり、生活の基盤となる各地区の活性化こそが市全体の活力の源といえます。

今後、地域社会やまちづくりへの市民参画を促すために、広聴広報の充実、情報公開および地域情報化を進め、コミュニティを生かした地域力をはぐくむまちづくりを実践していきます。

### ■市民サポーター制度

先日、九州南部の梅雨入りが発表されました。いよいよ本格的な大雨や台風の時期を迎えます。

その備えの一環として、本年度から導入し、各地区コミュニティ協議会から推薦された市民、58人に委嘱状を交付し、災害時に市内58箇所開設する詰め所への配置指示を終えたところです。

### ■自主防災組織

現在、その組織率は65%と1年前からすると25%の増加となっていますが、今後も自主防災組織の強化に向けた取り組みをさらに推進していきます。